

地域循環共生圏づくり支援ネットワーク 交流・意見交換会

～地域を超えて「環境・社会・経済・教育」の好循環について考える～



中国各県の間支援組織や全国EPOネットワーク等と連携し、地域循環共生圏に対する理解や学びを創出し、地域循環共生圏づくり支援のためのネットワークや中間支援機能を強化することを目的として、EPO東北の先進事例である「みちのく薪びと祭り」のキーパーソンの方々をお迎えし、認定NPO法人西中国山地自然史研究会の皆様にも全面的にご協力いただき、「芸北せどやま再生事業」の視察と交流・意見交換会を開催しました。



7年前、山形県三瀬からスタートした薪びと祭りは、昨年の青森県大鰐の開催を終えて東北地方を一周しました。

今年度、次のステップへ向けて今後どうしていくかが課題となっており、来年からの次の開催へとレベルアップするヒントを得るため、今回、広島県の芸北地区を実際に訪れて、第3回の福島県の開催以降、ゲスト参加いただき様々な活動について情報提供をいただいていた白川氏のフィールドを実際に視察し、関係者と意見交換会を開催する運びとなりました。

SCHEDULE

1日目(11/14)

- 13:30～ 開会、オリエンテーション
- 14:00～ 芸北せどやま事業の紹介・視察
- 16:30～ 移動、入浴 (芸北オークガーデン)
- 18:20～ 宿泊施設チェックイン

2日目(11/15)

- 9:00～ 意見交換会
- 12:00～ 閉会



《講師・ファシリテーター》

芸北 高原の自然館 主任学芸員

白川 勝信さん

《講師・板書》

認定NPO法人西中国山地自然史研究会

河野 弥生さん

曾根田 利江さん

参加者：15名／11団体

～内訳(所属)～

NPO・NGO等(9)、有識者(2)、EPO東北(3)、GEOC(1)

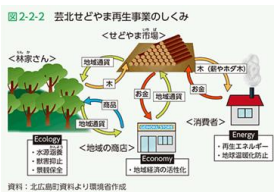
～地域～

秋田県(1)、岩手県(1)、山形県(2)、福島県(2)、宮城県(6)、東京都(1)、広島県(2)

2日目のみリモート参加：2名

視察後の意見交換会

- ・聞くのと見るのでは違った。実際に現場や町の規模を視察できて良かった。
- ・運営の仕方、地域でお金が循環する仕組みは参考になった。
- ・地域づくりをもっと子ども達を主体にしなければ、次の世代に継がれない。
- ・材を出す側なので、そちら側の視点も知りたかった。
- ・せどやま再生事業の、今後の持続可能性についてが気になる。
- ・金額的にも出口も開拓して町全体で素晴らしい。地元の役場の役員をつれて来たい。
- ・東北と景色が似ており、環境的にも共通点がある。まず「知ること」が出来た。
- ・学校や地域を巻き込み取り組みに感銘を受けた。
- ・今日参加したことで、山への価値や新しい視点の再生など学び気付く事ができた。



地域循環共生圏の実現に向けて

自然も経済も持続可能な有事に強い社会創りを目指して、「ローカルSDGs」実現のため、これから更に実践すべき事について、参加者全員でディスカッションしました。

<環境>

- ・街の人を森へ。森の現状や課題等、現場体験を通じて自分事になる。

<文化>

- ・物語は森から生まれ、森で事件が起こる(間伐ブルースなど)
- ・絶えてしまった森と人の暮らし方を知る(山菜、歴史背景、木の呼び方や方言、薪の種類)
- ・森を活かして暮らしに取り込む。食文化や利用の文化

<経済>

- ・新だけでなく森全体の資源化。
- ・かさこ地産的価値(経済)の循環(薪を入手できる場づくり)

<教育>

- ・子ども向けプログラムの共有とブラッシュアップ、
- ・地域内ネットワーク事例の共有
- ・一回体験してみても、次回も出来るぞうだと感じる活動
- ・森のようちえん

二日間を終えて

- ・新しい暮らし方や新の利用を広めていく事が、環境に優しく森が豊かになる気付きとなる。
- ・究極の目標は、閉鎖されても東北6県だけで生きていける体制づくり。
- ・同じ県内ですら共通語がない。地域の事を知るために地域で知恵を出し活かせるようにしたい。
- ・今後の発展には、まず自分自身が楽しみ、真剣な姿勢をアピールする。
- ・気付いていない地域を巻き込んで、新たな地域で新たな取組みが始まる
- ・山に入る人口をもっと増加させたい。
- ・「教育」は、場づくりだけでなく後継者を育てる活動が求められる。
- ・行政のトップを巻き込みたい。施策として大切な論点がある。
- ・経済活動の視点と地域貢献への視点がどちらも偏ってはならない。
- ・今までの自分とは違う変化を、多くの人達(次の世代)に見せたい。

